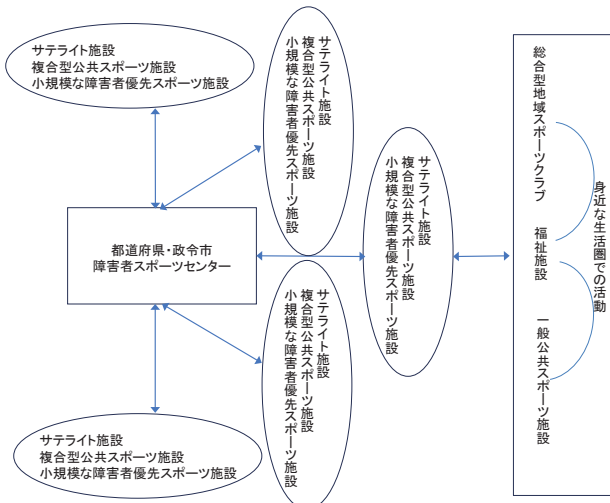


金山千広

(産業社会学部)

「障害者×スポーツ施設」インクルージョン



障害者スポーツセンターを中心とした施設ネットワーク化のイメージ

2024年現在、国内には150の障害者優先スポーツ施設が存在します。そのうち19都府県に所在する29の障害者スポーツセンターが日本パラスポーツセンター協議会に加盟しています。2030年を目標に障害者のスポーツ実施率向上を目指して、各都道府県および政令市に障害者スポーツセンターを設置する政策が進められています。このセンターには、ネットワーク形成、情報発信、人材育成といった多様な機能が求められており、地域連携を通じたインクルーシブなスポーツ環境の整備が期待されています。また、地域の複合型スポーツ施設や小規模な障害者優先スポーツ施設をサテライト施設として整備し、社会福祉施設や総合型地域スポーツクラブ、一般公共スポーツ施設と連携することで、障害の有無にかかわらず身近な生活圏でスポーツを楽しめる環境の充実を目指しています。以上を基盤に、障害者スポーツセンターが地域社会において担う役割とその可能性について、実証的な視点から研究を進めています。



所属

産業社会学部スポーツ社会専攻

研究テーマ

- 障害者スポーツの普及・振興に関する研究
- 学校体育・生涯スポーツにおける「場」のインクルージョン
- アダプテッドスポーツのマネジメント

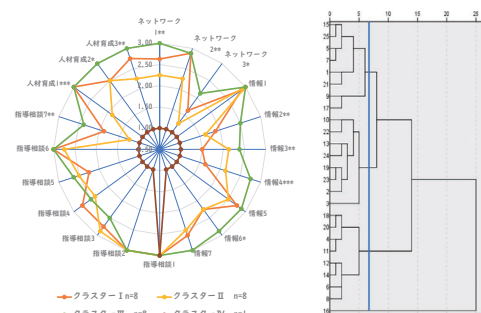
キーワード

障害者優先スポーツ施設、インクルーシブ体育、当事者評価、公共スポーツ施設のインクルージョン

研究事例

地域の障害者スポーツセンターに期待される機能は、①教育、福祉、医療、行政の組織及び人的、物的な資源をつなぐネットワーク、②障害者スポーツの推進にかかる情報拠点、③センターを囲む施設内外のスポーツ指導及び専門的知見をいかした指導・相談、④障害の有無を問わないスポーツ指導を展開するための人材育成・支援の4つになります。

2023年11月、全国障がい者スポーツセンター連絡協議会（当時の名称）加盟26施設を対象に質問紙調査を実施し、4つの機能について施設類型化を図りました。包括的类型、リハビリ情報が弱いタイプ、競技力養成が弱いタイプ、館内対応特焦点タイプの4つのクラスターが析出されました。



障害者スポーツセンターの機能別クラスターの特徴
金山千広ほか (2023)「障害者スポーツセンターに期待される4つの機能の現状」JPSA第39回スポーツセンター協議会シンポジウム資料 (2023.11.27 至神戸市民福祉交流センター) を一部改変